

# TEAM連携で取り組む低炭素社会づくり 4プロジェクトを展開

現在、広島県内には26の地球温暖化対策地域協議会(以下、TEAM)が設立され、市民や事業所、行政などと連携しながら、地域の特性を生かした活動を展開している。

今年度は、複数TEAMと脱温暖化センターひろしまなどで共同を形成して温室効果ガスの排出削減効

果を検証し、成果の活用を通じて低炭素社会づくりを目指すとして、4つのプロジェクトを立ち上げたので、その活動内容や成果を紹介する。なお、この事業は、環境省の補助金(地域活動支援・連携促進事業)を活用した。

■緑のカーテンプロジェクト  
緑のカーテン設置によるCO<sub>2</sub>削減効果や実測による温度上昇抑制効果、効果的な設置方法などを検証し、結果を県内全域に広め実践者を増やすことをねらいに、13TEAMと広島工業大学都市・建築環境研究センターでプロジェクトを結成した。

まず、省エネに挑戦するチャレンジを募集。8～9月に学習会を開催し、家庭のエネルギー使用実態や省エネ対策メニューなどを学んだ。その後、チャレンジには省エネを実践すると同時に、9～10月の電気・ガス・灯油使用量や取り組んだメ

ニューなどを記録してもらった。

11～12月には、再度学習会を開催し、実践を振り返るほか、省エネを広め活動を拡大させるためのアイデア出しを行った。

641人が挑戦し、2カ月間の電気使用量は昨年同月と比較して1万4510kWh削減できた。また、都市ガスは13.5立方メートル削減、LPガスは22立方メートル増、灯油は378リットル削減となり、2カ月で1万3755kWhのCO<sub>2</sub>が削減できた。

■キッチン改革プロジェクト  
煮るに着目し、エコクッキングによるエネルギー使用量削減効果を検証し、削減効果の高い調理法の実践を通じてキッチンでのCO<sub>2</sub>削減を推進しようとして、5TEAMと広島工業大学都市・建築環境研究センターでプロジェクトを結成した。

まず、学習会を開催し、メンバーがカレーを調理する際に実践しているエコ技を共有。その後、実験を重ね、市販の箱に記載されているレシピで調理した場合とエコ技で調理した場合のガスおよび電気の使用量を測定した。その結果、「保温」で加熱時間を短縮し、火力のレベルを下げて、美味しく仕上がる新たなエコ技が誕生し、箱のレシピで作るよりもガスは約30%、電気は約20%もエネルギー削減につなが

る。また、フリースなどを使った保温調理は、加熱時間の短縮につながる

募集人数は、前期・後期でそれぞれ15人の計30人である。

まず、運転データを収集する計測装置を車に取り付け、1カ月間はこれまでどおりの運転をしてもらった。次に、交通エコロジー・モビリティ財団が認定した自動車教習所でエコドライブ教習を受講してもらった。

30人の参加者から集積したデータの累計は、走行距離5万5132キロ、燃料消費量は3952リットル、平均燃費は14.8リットル/100キロであった。

たので良かった」といった声があった。アンケートでは、エコドライブを続けるには、車にエコドライブが分かる機能を付けること、燃料消費量が分かること、という感想が多かった。

参加者の感想では、「計測装置の取り付けやエコドライブ教習は面倒だったが、運転状況がリアルタイムで分かるのは面白かった」「エコドライブ教習は思ったよりも効果的だった」「クセに気づけ

プロジェクトの成果は冊子にまとめ、今後の活動の参考に活用してもらった。



エコ技でカレーを調理するメンバー上、省エネに挑戦するチャレンジを対象に学習会を開催(上)

## 平成25年度環境と健康のコミュニティ活動助成事業一覧 ～活動の概要～

部門	団体名	事業名	活動の概要
導入型	世羅町津名地区	世羅西地域ゴミステーションモデル推進事業	学習会・エコツアーを開催し、きれいなゴミステーションづくりをめざす。
	三次市布野地区	おいで～やあ 横谷の大自然の中へ	あそび体験フェスタを開催し、各コーナーを回りながら楽しく環境学習をする。
発展型	廿日市市佐伯	佐伯リサイクルまつり	リサイクルまつりを開催し、ごみの減量化、資源の有効活用を推進し、地球環境を守るための動機付けを行う。
	北広島町	北広島町笑顔で取り組む脱温暖化のまちづくり事業	エネルギーの無駄遣いをなくす生活習慣を広め、日常生活から排出される二酸化炭素を減らす取り組みを行う。
	東広島市	アイガモ農法による米づくり教室	アイガモ農法による無農薬で環境にやさしい米づくりを行い、食の安全や環境についての理解を広める。
	世羅町	世羅町公衛協PR作戦	スポーツごみ拾い大会を開催し、公衛協活動への理解を深め、公衛協の活性化を図る。
	世羅町西大田地区	西大田地区公衛協活性化事業	水辺教室やエコツアーを開催し、環境づくりのリーダーをめざし、公衛協の活性化を図る。
	福山市泉学区	「学社融合」小さな行動 大きな「力」に!	緑のカーテン、マイ箸づくりなどの活動を行い、温暖化防止について学習し、アクションを起こしてもらう。
	福山市道上学区	個別省エネ診断	環境家計簿により省エネ診断を行い、学区内の季節変動を把握する。さらに、地区の省エネ意識向上に努める。
広域型	庄原市西城地区	「学社融合・食育教室」 とうもろこしの種まき、収穫体験	とうもろこしの種まき、収穫を体験し、収穫したとうもろこしを食べ、食育につなげる。
	尾道市	「健診へ行こうよ!」事業	地域コミュニティによる受診率向上運動のさらなる飛躍をめざす。また、モデル地区内での生活習慣病予防学習会などを行う。
	府中市	環境マップ作製(活動事業)	環境マップを作成し、公衛連の活動を広く市民にアピールする。さらに、地域の環境美化についての意識づくりを行う。

まず、学習会を開催し、メンバーがカレーを調理する際に実践しているエコ技を共有。その後、実験を重ね、市販の箱に記載されているレシピで調理した場合とエコ技で調理した場合のガスおよび電気の使用量を測定した。その結果、「保温」で加熱時間を短縮し、火力のレベルを下げて、美味しく仕上がる新たなエコ技が誕生し、箱のレシピで作るよりもガスは約30%、電気は約20%もエネルギー削減につなが

る。また、フリースなどを使った保温調理は、加熱時間の短縮につながる

募集人数は、前期・後期でそれぞれ15人の計30人である。

まず、運転データを収集する計測装置を車に取り付け、1カ月間はこれまでどおりの運転をしてもらった。次に、交通エコロジー・モビリティ財団が認定した自動車教習所でエコドライブ教習を受講してもらった。

30人の参加者から集積したデータの累計は、走行距離5万5132キロ、燃料消費量は3952リットル、平均燃費は14.8リットル/100キロであった。

たので良かった」といった声があった。アンケートでは、エコドライブを続けるには、車にエコドライブが分かる機能を付けること、燃料消費量が分かること、という感想が多かった。

参加者の感想では、「計測装置の取り付けやエコドライブ教習は面倒だったが、運転状況がリアルタイムで分かるのは面白かった」「エコドライブ教習は思ったよりも効果的だった」「クセに気づけ

プロジェクトの成果は冊子にまとめ、今後の活動の参考に活用してもらった。

プロジェクトの成果は冊子にまとめ、今後の活動の参考に活用してもらった。

プロジェクトの成果は冊子にまとめ、今後の活動の参考に活用してもらった。